

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	REVOLT2020	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.470	△RG	0.056	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：REVOLT2020

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 インチ

4-1/2

比較対照ボール：ROYAL REVOLT

フレアーの幅 インチ

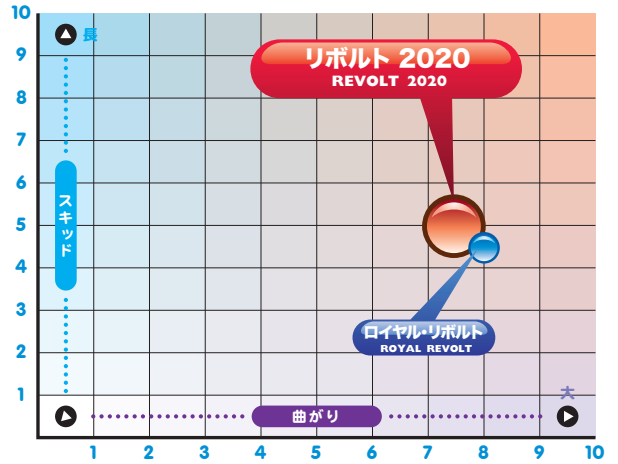
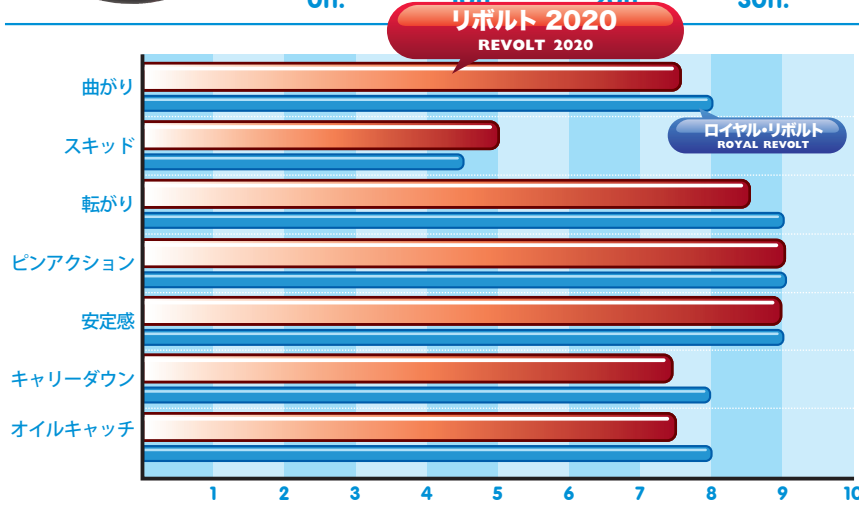
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 インチ

4-1/2



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

MOTIV社の象徴と言えばJACKALとREVOLT。現在MOTIV社ではREVOLT製品は生産が終わりましたが、日本にはまだ多くのREVOLTを望む声が多いこと。ABSボール開発チームはそのニーズに応え、製品を作り上げることに力を注ぎます。REVOLT 2020と名付けられたNew REVOLTは、性能も見た目も拘りつくした歴代REVOLTの中でも歴史を塗り替えるボールとして誕生しました。REVOLT 2020が完成するまで、私たち開発チームは様々な配色とカバーストックとの相性を何度もテストしてきました。その中で表面仕上げもさることながら、配色でリアクションイメージがかなり違って見えることでした。

今回私達がREVOLT 2020に求めたのはREVOLTの中でもやや先に曲がりかイメージできる性能なので、テストングの中でもJACKAL LEと同等の配色を選択。

先でイメージできるリアクションイメージを持ちながら、むろんキャッチを活かせるスペック戦略でキャッチが強く出るCoercion HFS Reactive 3000Grit LSS仕上げでキャッチと入射角のあるREVOLTを求めました。

私達が今回REVOLT 2020に求めた注意点は、オイルには強めだが”噛み過ぎない”ことです。先での入射角を取るためでもあります。コンディション対応の中間からやや上の領域に照準を合わせ、少しでも長くREVOLT 2020を使って頂けるために設定もしています。JACKALシリーズを使い、その後REVOLTシリーズが使用できたように盤石のリレーがMOTIV内でできるのも強みにできる利点もあります。

配色からマーキングまで開発チームが拘って作り上げたREVOLT2020はREVOLTシリーズ間違いなし!と頷ける逸品です。REVOLTシリーズを待ち望んでいた方、このボール欠かせないでしょう。

特記事項

待ち望んでいたREVOLTシリーズを手に入れるチャンスです。
JACKAL LEをイメージできる配色に、キャッチと先の動きを魅せるのがREVOLT 2020です。